



REPORT ②

2畳のキャンパスに郷土を描く 東城発の夏の伝統行事「箱庭」

「箱庭」は一種のミニ庭園で、2畳くらいの広さの箱に、採取してきた石や砂、苔などを使い、山や谷をこしらえ水を流すなど、パノラマ風に景観をつくりあげるものです。雄橋や神龍湖など東城の自然や、お通りや夏祭りなど東城の代表的な行事がよく題材となります。旧暦七夕に書の上達を願い子どもたちが書いた作品(天満書)を幕に張り出し、箱庭と一緒に展示するのは相当古くからの習わしで、県内でも珍しい行事です。夏休みに入ると、子ども会単位で箱庭作りに取り組みます。子どもたちは、東城の自然や伝統行事を調べることで、あらためて郷土の素晴らしさを感じることができます。現在は、高齢者施設でも作成に取り組みられています。

今年も8月に町内3カ所で箱庭が展示され、10月28日には、東城小学校で開催される県北造形教育研究大会の中で、郷土の造形文化として箱庭が紹介される予定です。



▲中川西下通学区作品「大山供養田植」



▲新町 大正町 上中本町
下本町通学区作品「雄橋」

ヒゴタイを見ながらお茶会を 比和町三河内の古民家で

REPORT ③

比和町三河内の慶雲寺の参道脇に咲く、1mほどに伸びた「ヒゴタイ」が、ルリ色の小球状の花をつけ、8月中旬に見ごろを迎えました。

この花は氷河期に大陸から渡ってきた植物で、環境



▲鮮やかなルリ色のヒゴタイ



▲抹茶をたてる来訪者

省の絶滅危惧 I B類に指定されています。ヒゴタイの保存活動に取り組んでいるヒゴタイの会が9月4日と5日、近くの民家でヒゴタイを觀賞しながらお茶を楽しむ会を企画。市内外から60人の参加があり、ヒゴタイの切り花を飾った室内で、自らたてた抹茶を飲みながら穏やかなひとときを楽しみました。ヒゴタイの觀賞のみで訪れた人を合わせると100人を超え、予想以上の盛況となりました。訪れた人は「静かな環境の中で色鮮やかなヒゴタイを見ながらのお茶会はとても感動した」「きちんと整頓された古民家でのお茶会は田舎ならではの風情がありとてもよかった」などと話していました。

REPORT ④

節分草保存会が県知事表彰 広島県いきいき地域づくり賞

総領町のNPO法人節分草保存会が「広島県いきいき地域づくり賞」を受賞しました。

この賞は、自主的な地域づくり活動で地域振興や地域活性化に貢献している団体を表彰するもので、庄原市からは昨年度の広島県雪合戦大会実行委員会に続いての受賞となりました。

本年度は県内で9団体が選ばれ、8月20日に行われた授賞式で湯崎知事から中谷理事長へ表彰状が手渡されました。

節分草保存会では、自生地、公開地の草刈りなどの保存活動や、毎年2月から3月上旬まで行われる節分草自生地公開期間中のボランティアガイドなどを行っています。



▲後列左から1人目が中谷理事長

庄原実業高等学校写真部が快挙！ 全国高等学校総合文化祭写真部門で4作品が入賞

REPORT ①

第34回全国高等学校総合文化祭写真部門が8月1日～5日、宮崎市で行われ、庄原実業高等学校写真部の春田真実さん(3年)が、全国1位となる最優秀賞文部科学大臣賞を受賞。このほか同写真部の山邊久美さん(2年)が優秀賞、横山遥加さん(3年)と山田智世さん(2年)が奨励賞をそれぞれ受賞しました。この写真部門には、全国各都道府県の大会で上位に

入賞した308点が出品され、そのうち30作品が入賞し、その中でも4点が入賞した高校は庄原実業高校だけという快挙となりました。

写真部顧問の森岡幸男教諭は「高校生の今しか撮れないものを撮るように指導している。高校生らしさが出たことがいい成績につながった」と喜んでいました。



①(左から2番目)最優秀賞の春田さんが出品した「悠悠人」。福山市鞆の浦で偶然出会ったおじいちゃんが笑顔でビールを飲む姿を写した作品。審査員からは「プロ写真家が撮影したのではないかと思うほどの力作」と評価された。春田さんは「声をかけ会話をしながら撮った写真の1枚。とてもびっくりしたけどうれしかった」と喜ぶ。

②(左から3番目)優秀賞の山邊さんが出品した「17歳の苦悩」。学校の廊下で頭を抱えて座り込む女子高校生の苦悩を表現した作品。「光が美しく、苦悩を象徴するようなシルエットが不思議な空間を作り出した。心の深淵を描いた技術は巧み」と評価された。山邊さんは「自分が撮りたいものを自分なりに考えて撮るよう心がけた」と話す。

③(左端)奨励賞の横山さんが出品した「星空モノクローム」。学校の玄関先の駐車場で水たまりに写り込んだ女子高校生5人をとらえた作品。「高校生らしい自由な発想で作った感性がすがすがしい」と審査員。横山さんは「いい写真を撮るには、たくさん写真を撮ること」と話す。

④(右端)奨励賞の山田さんが出品した「恋?」。男子高校生2人が相合い傘で笑顔で語り合う姿を描いた作品。審査員は「ほほえましい演出写真で笑顔が心地よい。教室から出ようとする教師の姿が、表現に奥深さを醸し出した」と評価。山田さんは「実は偶然撮れた一枚」と喜ぶ。

REPORT ⑧

おふくろの味をお腹いっぱい詰め込んで
子育て支援事業で郷土料理づくり

口和保健センターで9月10日、子育て支援事業の一環として、おふくろの味を楽しむ会が行われました。

口和子育て支援センターが主催するこの会は、年4回開催しており今回で2回目。子育ての先輩である口和町向泉の福歳カズコさんの指導のもと、子育て情報の交換や世代間交



▲うどん作りにチャレンジ

流をしながら、郷土料理を作りました。

当日の参加者は7人と少なめでしたが、地元で栽培された小麦の粉をこねてうどんを作ったり、今年収穫したばかりのコンヒカリを使っておむすびを作ったりして調理を楽しみました。

調理終了後、近所の人たちも集まったの昼食会では、「も〜食べれん」と言いながら皆さん完食していました。



▲手打ちうどんを味わう親子

西城産いちごの可能性広がる
ヒバゴンキッチンⅢ いちごカフェ開催

REPORT ⑨



▲いちごスイーツの盛り合わせ

西城町三坂「峠の茶屋やまびこ」で9月12日、一日だけのいちごカフェが開店し、県内外から約200人が訪れ、多彩ないちごメニューを楽しみました。

いちごカフェは、西城地域に暮らすみんなが地元の農と食について考える「ヒバゴンキッチン」の第3回目の事業として行ったもので、西城産夏いちごの付加価

値を高めPRしようと、生産者、飲食店、研究グループが協働で準備を進めてきました。

夏も涼しい道後山高原で育ついちごは、さわやかな酸味と鮮やかな紅色で、果実はしっかりしていてみずみずしいのが特長です。こうした特長を生かしたいいちごレシピを地域住民に募集したところ14点の応募があり、応募作品の中から、いちごのムース、シャーベット、白玉冷やしぜんざいなどを、専門家のアドバイスを受けてメニュー化しました。来店者からは「どれもおいしく美しくレベルが高い」「西城のいちごにも農業にも可能性を感じる」「いつもこんなカフェがあればよい」などと感想が寄せられ、中でも名物料理ヒバゴン井といちごスイーツとのセットメニューは大好評でした。

REPORT ⑩

酷暑のフィールドに、さわやかな風
第11回ひろしまクロスカントリー大会

道後山高原クロカンパークで8月21日、第11回ひろしまクロスカントリー大会が開催され、北海道から沖縄まで全国27都道府県から、2000人を超えるアスリートがクロカンパークに集いました。

ひろしまクロカン最大の魅力は、世界を舞台に活躍するトップアスリートの走りを間近に見ながら市民ランナーや家族連れも競技を楽しめること。今年も、尾方剛、油谷繁、佐藤敦之などのオリンピック選手や、実業団に所属する10人の招待選手とともに、1歳の幼児から86歳の高齢者まで、1*から8*の5つのコースに分かれて挑戦しました。今大会からシャトルバスの運行を充実させたこともあり、大会運営を支える競技役員が40人余り増えて232人となりました。初めてひろしまクロ

カンの大会役員として参加したという女性は「酷暑の夏、クロカンパークも日差しは強烈ですが、吹く風はさわやか。大自然の懐に抱かれて、みんなが心をついにベストを尽くすことがこの大会をさすがにいいものになっていると思う。来年も参加したい」と話していました。



▲元気よく一斉にスタート



▲平和の誓いを述べる

過去の歴史を学び、後世へ伝える
高暮ダムで平和の集い

REPORT ⑤

第11回高暮平和の集い並びに追悼碑前祭が9月12日、高野町のふるさと村高暮と高暮ダム朝鮮人追悼碑前で開催されました。この集いは、高暮ダム建設に伴う苛酷な工事で犠牲となった朝鮮人労働者と戦没者の方々の冥福を祈り、刻まれた史実から過去を正しく認識し、日朝韓の変わらぬ友好を誓うため、地元高暮自治振興区の主催で毎年開催されています。

今年は、日韓併合条約が締結されて100年という節目の年にあたり、市内外から約100人が式典に参加しました。式典では、広島県高等学校平和セミナー、広

島朝鮮初・中・高級学校の代表による平和の誓いや参加者全員で慰霊碑に献花が行われ、ダムに向かって「アリラン」と「ふるさと」を合唱し犠牲者に祈りをささげました。式典に続いて、元中学校教諭の四車ユキコさんが「高暮ダムの歴史」や「韓国併合」について講演。参加者は、高暮ダムの史実から、平和の尊さについて学習を深めました。



▲慰霊碑に献花する参加者

REPORT ⑥

食の自立でバランスある朝食を
永末小学校で朝食づくり

食と学びの自立をテーマに食育に取り組んでいる永末小学校が9月9日、全校児童で朝食づくりを行いました。朝食の大切さを知り、バランスの良い食事を



学ぶことを目的に取り組み始めて今回で4回目。この日にあわせ、高調理場の栄養士の方に助言を受けな

がら6年生が献立を考え、5年生が味噌汁、3・4年生がご飯、1・2年生がはし置きや花びん作りを担当しました。食材は、地元の農業生産法人などが提供し、ほとんど地元産を使用しています。佐々木妙子校長は「この取り組みの継続が、食の大切さの意識向上につながっている。自分で朝食を作る子どもも増えており、食の自立につなげていきたい」と話しています。



▲慣れた手つきで野菜をきざむ児童



▲風鈴に俳句を書き軒先に

比和の魅力をどっぷりたんのう
さとやまバスツアーでまちなか散策

REPORT ⑦

比和のまちなかを散策する庄原さとやまバスツアー（庄原市観光キャンペーン実行委員会主催）が8月22日に開催され、広島方面から22人の参加がありました。これは、比和まちなか活性化推進会議がツアー客の受け入れを呼びかけ、これに賛同した地元住民が、民家などの空きスペースを活用したメニューを提供しています。この日はとても暑い日でしたが、まちなかの一軒

軒が軒先に風鈴俳句を飾っておもてなし、暑さを和らげました。参加者は、地元の方の案内で、牛市で栄えた場所、元旅館、元醤油蔵などの昔の建物や比和自然科学博物館を見学し、慶雲寺で「ヒゴタイ」を観賞しました。また昼食では、比和特産の10割そばや山菜料理を味わい、帰り際には、朝採れアスパラガスが参加者全員にプレゼント。比和のまちを存分に堪能した一日となりました。



▲10割そばと山菜料理の説明をうけるツアー客